



山陽新聞賞 奨励賞

輝く8人3団体

第70回山陽新聞賞の受賞者が決まった。山陽新聞社が岡山、広島両県内で文化、社会、学術、産業、国際などの各分野で地域社会に貢献した個人、団体に毎年贈っている。今年は文化功労4人、社会、学術、産業、国際功労各1人と、山陽新聞奨励賞の文化部門2団体、教育部門1団体の計8人、3団体。晴れの受賞者を紹介する。

AMD A理事長

すがなみ
菅波

しげる
茂氏 (65)

岡山市北区大和町

国境越えて医療支援

出発点は岡山大医学部の学生だった1969年。アジア各国を約10カ月間にわたって一人で

する緊急救援が中心。国内の医師や看護師の登録者は約400人に上る。海外支部もアジア中

んだ。「これまで抱き続けてきた多国籍医師団の構想が完成した節目」と振り返る。

旅し、恵まれない医療事情を肌で感じた。「支援には国境を越えたネットワークが必要」と、医師となって13年目の84年、国際医療ボランティア・AMD A (アジア医師連絡協議会、本部岡山市) を設立した。

心に30カ国にあり、災害時には近隣の支部とともにチームを編成して派遣する。派遣先はこれまでに50カ国以上、約140件を数える。

公設国際貢献大学校(新見市)の初代校長を務めるなど「岡山発の国際協力」もけん引してきた。「AMD Aのネットワークを通じて県内市町村が魅力を世界に発信するのを手伝いたい。それが地域への恩返しになる」と熱く語る。(鈴木義治)

活動は難民や災害被災者に対

200人以上を被災地に送り込

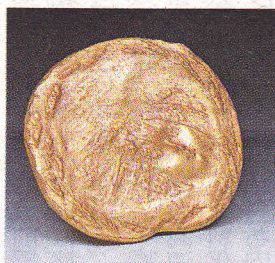
スマトラ沖地震では10カ国から

第70回

山陽新聞賞

山陽新聞社は毎年、文化、社会、教育、学術、産業、国際の各分野で、地域社会に貢献した個人、団体に「山陽新聞賞」を贈り、功績をたたえています。

第70回は山陽新聞賞に個人8人、山陽新聞奨励賞に



3団体が決まりました。受賞者には賞状とメダル（日本芸術院会員蛭田二郎氏制作）＝写真、賞金を贈ります。贈呈式は10日に岡山市内で開きます。（受賞者の業績は20、21面に掲載。敬称略）

山陽新聞賞

文化

民俗学

神崎 宣武 (埼玉県)

備前焼

小西 陶蔵 (備前市)

洋画

難波 滋 (倉敷市)

デザイン

水戸岡 鋭治 (東京都)

社会

地域医療の充実

衣笠 和孜 (岡山市)

学術

抗体医薬の研究

西堀 正洋 (岡山市)

地域への貢献をたたえる

産業

磁石材料の製造

赤岩 達重 (和気町)

国際

人道支援

菅波 茂 (岡山市)

山陽新聞奨励賞

文化

音楽文化の普及・向上

岡山フィルハーモニック
ク管弦楽団 (岡山市)

文化財保護

福山市文化財協会
(福山市)

教育

人材育成

財団法人大本育英会
(岡山市)